

若い人たちに語り継ぎたい、  
次の世代に残しておきたい。  
貴重な話をお届けしますー。

## あすへひとこと

いつの時代までも残したい

### 邑楽町の昔ばなし



昔、この辺の人が畑で木彫りの大黒様を見つけ、旧社地に祭ったという話があります。地名の「大黒」も関係があるのかもしれませんが

### 祭神と大国神社

篠塚大黒地区の祭神として、古くから祭られてきた大黒様があります。現在は、23区公民館の入り口に安置されていますが、長らく祭られていた場所は、現在の水立の信号がある交差点の東北角でした。

その経緯は「遷座記念碑」に発祥の由来とともに記されています。「本社は元禄16年(1703)11月、この地を大黒として新田開発した16人によって、造立奉祭された大黒天石像を発祥としています。明治13年(1880)、信徒総代小林竹次郎のとき、大国神社と改め、大国主命を祭神としました。平成6年3月、町道幹線6号線拡幅のため、旧社地から、現在地に新築遷座しました。このとき、境内に、旧社地から十九夜月待塔と庚申塔を遷座しました。発祥以来、地区の幸福と発展を祈願し、鎮守の神として永年にわたり崇敬されてきました。」以上が、遷座記念碑の全文です。

現在も、昔ながらのお祭りは継承されていて、春は、4月下旬に甲子祭りをを行います。8月は夏祭りとして百万遍祭りがあります。暑い土用に行い、地区住民の無病息災を祈願しています。以前は、10cmくらいの木の玉で作られた3mくらいの

数珠を持ち出して、全員で回して遊んだそうです。当時は小さい店も出るなど、大変にぎわったそうです。現在の祭日には、神社総代が中心になって、年番の皆さんと神殿内と境内の清掃を行い、昔日の繁栄をしのんでいます。

### 五十五の団子

今では、ほとんど行われなくなった風習の一つに「五十五の団子」というのがあります。叔父さんや叔母さん、兄弟姉妹などが五十五歳になると、その年のお正月に、それぞれの親戚が招待し合うものです。

五十五個の甘い団子を、お茶碗一杯の目安で作り、ごちそうを並べて、五十五歳になったその人に食べていただきます。甘党の人にはうれしい習わしも、甘い物が不得手な人にとっては、五十五個もの甘い団子は、さぞや恐ろしかったことと思います。

そんな思いをしながらも、お互いの長寿を祝い合いました。昔は「人生わずか五十年」といわれたように、あまり長命ではなかった時代です。五十五歳まで生きられたということで、親戚中で祝ってくれたものと思われま。人生八十年の現在では、不思議に思われる風習かも知れません。

【発行】邑楽町老人クラブ連合会 【編集】あすへひとこと編集委員会  
(平成20年6月28日発行「邑楽町のくらしの四季(第九集)あすへひとこと」)



梅と松  
(緑化センター)



Photo 高根澤高明(記録ボランティア)

### ひとりごと From editors

▶本紙7~13ページまでの「次の50年へ大きく一歩」特集。広報おら編集部からは次のとおりです。▶広報紙をつくることで町を元気にしたい。広報紙をつくることでこの町に住んで良かったと思ってもらいたい。広報紙がこの町に生きた証になってほしい。…単純ですが、そんな思いで毎月発行しています。▶しかし、私たちの暮らし毎日には、未来を考えるきっかけが少なく、未来を忘れる現実が多いように思います。だからこそ、こうして広報紙をつくり、発行することで未来を考えるきっかけを生み出していきたいと考えています。▶そんな「広報紙づくり」は今まで変わらず、これからも町中の皆さんと進めていきたいです。▶以上、200字程度でまとめました……か？(深澤)